

会 議 録

会議の名称		令和8年度第1回守谷市地域福祉推進委員会		
開催日時		令和8年7月24日（金） 開会：10時00分 閉会：12時10分		
開催場所		市役所 大会議室		
事務局（担当課）		健幸福祉部 社会福祉課		
出席者	委 員	有原委員、石澤委員、森山委員、大久保委員、山下委員、友松委員、小野寺委員、竹尾委員、松元委員、國貞委員、塚越委員、大塚委員、山口委員、長津委員、佐藤委員 計15人 （欠席者：宇佐見委員、荒川委員、川名委員、大森委員 計 4人）		
	事務局	羽田健幸福祉部長、森山こども未来部長、高橋社会福祉課長、芳師渡社会福祉課長補佐、北川係長、社会福祉協議会 高橋事務局長（株）環境総合研究所 大谷氏、安島氏 計 8人		
公開・非公開 の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人
公開不可の場合は その理由		守谷市審議会等の会議の公開に関する指針		
会 議 次 第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和7年度 of 取組評価等について （2）第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画 骨子案について 4 閉 会		
確定年月日		会議録署名		
令和8年7月31日		委員長 森山 克彦 議事録署名人 山下 勝博 友松 雅栄		

1 開 会

2 あいさつ

事務局職員の自己紹介

3 議 題

(1) 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和7年度の取組評価等について

高橋社会福祉課長から資料1に沿って説明

主なご意見・ご質問

■ 大塚委員

- ◆ 前回の委員会でも発言したが、市民アンケートは毎年実施しているわけではないので、第4期計画において市民アンケートの結果を指標値として使用することは適さないと改めて感じた。
- ◆ 基本目標1 基本施策1に関する取組は、各地域のまちづくり協議会等で横串を刺したような形で多岐に渡り実施している。当計画は地域住民を主役とする活動を推進するための計画であるにも関わらず、地域活動に関する記載が少ないと感じるので、地域活動をより把握してほしい。積極的にアウトリーチをし、まちづくり協議会や自治会等の活動を第4期計画にもきちんと位置付け、継続的に評価、推進していくことが重要である。

➤ 高橋課長

- ◆ 第4期計画については、市民アンケートの結果を基に評価するのではなく、計画に位置付ける事業の取組内容等を評価する形としたいと考えている。
- ◆ これまで以上に地域活動の内容に着目していく必要があるとのご意見について、第4期計画においては、基本目標に対して、「市民や地域に期待される取組」、「守谷市の取組」、「守谷市社会福祉協議会の取組」といった3者の視点に立った取組をまとめていく予定である。地域活動の具体的な評価の方法についても今後検討していきたい。

■ 山下委員

- ◆ 前回の委員会でもお願いしたが、事務局の社会福祉課だけではなく、関係各課にも当委員会に参加してほしい。特に今後、第4期計画の施策を協議する際には、関係各課の参加をお願いしたい。
- ◆ 10月に10地区のまちづくり協議会の代表者会議があるので、当委員会と代表者会議、まちづくり協議会等との連携をとってほしい。
- ◆ 資料1 8ページの指標値として「災害時に、近所に助けが必要な人がいることを知っている

市民の割合」が記載されており、令和 6 年度の数値が20.8%となっており、数値が伸びていないのは何故か。

➤ 高橋課長

- ◆ 災害時にお一人での避難が困難な方の情報をまとめた避難行動要支援者名簿等（以下、名簿等という）を市で作成しており、年2回、地域の自治会等に提供している。6月には名簿等の提供と併せて避難行動要支援者制度の趣旨説明や地域での活動事例の紹介を行う場を設けている。制度自体の認知度も、この指標値の伸び悩みに影響している可能性はある。

➤ 森山委員長

- ◆ 自治会等から市に情報を要求すると、個人情報なので開示してもらえないといったこともある。自治会等には避難行動要支援者制度について広く知ってもらいたいと思う。
- ◆ 関係各課に当委員会に出席してもらうことも重要だと思いがいかか。

➤ 高橋課長

- ◆ 関係各課の出席についても前向きに検討、調整していきたいと思う。

➤ 山下委員

- ◆ みずき野地区では、交通防災課にも出席いただき、風水害に関する説明会を開催する。災害時、隣近所への意識、助け合いの意識を醸成していきたいと考えている。
- ◆ 指標値「災害時に、近所に助けが必要な人がいることを知っている市民の割合」について目標値が25.0%とあるが、目標値には意味がないし、聞き方が適切ではないと思う。目標値の設定方法等については留意してほしい。

■ 杉元委員

- ◆ 市民アンケートを令和 7 年度実施しなかった理由と今年度の実施予定を教えてください。

➤ 高橋課長

- ◆ 市民アンケートは当計画の進行管理のために社会福祉課が実施しているのではなく、総合計画の策定等に関連して企画課が実施しているものである。
- ◆ 令和 7 年度に市民アンケートを実施しなかった理由については把握していないが、令和 8 年度は実施している。

■ 大久保委員

- ◆ A、B、C 等の取組評価は誰が実施しているのか。
- ◆ 事業の外注も増加傾向であると思うが、事務に直接携わることで得られる情報や職員のスキル向上等の観点から、外注の是非も検討が必要ではないか。

➤ 高橋課長

- ◆ 各担当部署において各年度の目標を設定し、それに対して評価を実施したうえで、庁内

で地域福祉計画検討委員会を開催し、評価内容を共有している。

- ◆ 地域福祉事業に関する外部委託に関して、社会福祉課においても生活困窮に関する相談事業等を外部に委託しているが、書面での報告のほかに、定期的に状況確認の場を設けており、適切に情報共有をしながら職員のスキル維持も図っている。

➤ 森山委員長

- ◆ 費用対効果という観点からはどうか。

➤ 高橋課長

- ◆ 費用対効果を測る具体的な指標があるわけではないが、マンパワーの面から見ても、良い効果が出ていると思う。

■ 有原委員

- ◆ 北守谷地区やみずき野地区は地域の取組レベルが高い。守谷地区のまちづくり協議会は複数の自治会が集まった地区が多く、難しい議題に対しては意見がまとまらず、身動きができない。

(2) 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画 について

- ・ 高橋社会福祉課長から資料Ⅰに沿って説明
- ・ 令和8年7月13日に開催した地域福祉計画検討委員会での意見についても紹介

主なご意見・ご質問

■ 大塚委員

- ◆ 基本目標に対して、「市民や地域に期待される取組」、「守谷市の取組」、「守谷市社会福祉協議会の取組」の3者の視点に分けて記載する点については分かりやすく良いと思う。
- ◆ 取組事業について、重点、新規、拡大事業に絞って掲載する理由を再度説明してほしい。

➤ 高橋課長

- ◆ 第3期計画に位置付けている取組事業は200超あり、その中には安定的に事業が行われているものも多く含まれている。また、各分野の個別計画で既に位置付けられている事業もある。第4期計画では、取組事業を網羅的に示すのではなく、どの事業に注力していくのかを分かりやすく示していきたいと考えている。そのため、原則は重点、新規、拡大事業に絞って掲載していくこととしたいと考えている。

➤ 大塚委員

- ◆ 市民、地域が実施している地域活動、社会資源をきちんと把握している部署はあるのか。きちんと把握し、他の地域に広める機能が市には必要である。

➤ 高橋課長

- ◆ 各部署において、事業に関係する地域活動は把握している。そのほか、まちづくり協議会

等に関する活動は市民協働推進課や社会福祉協議会が把握するとともに、定期的に情報共有を行っている。また、各自治会には地域担当職員が配置されている。しかし、地域活動を庁内で網羅的、体系的に把握する機能等はない。

➤ 森山委員長

- ◆ 地域活動の活性化を図るには、地域活動の成功事例を共有し、互いに参考にできるような機会を設けることができると良い。

➤ 大塚委員

- ◆ 様々な地域活動のコーディネート役が必要だと思う。コーディネート機能を地域住民が担うのは困難であるので、市がその機能を担うべきである。

■ 山下委員

- ◆ 骨子案 27 ページに精神障がい者等への支援が課題とされている。学校においても、特別支援学級等が増えていると聞く。人口減が見込まれる中で、障がいのある方や未来を担う子ども達を支えるための環境整備をお願いしたい。

➤ 高橋課長

- ◆ 当計画は障がい者福祉計画等の上位計画であるので、障がい者支援に対する課題についても整理していきたいと考えている。
- ◆ 将来人口については、総合計画の推計との整合を図ったうえで、骨子案 12 ページに掲載予定である。将来人口については、近い将来で人口減少に転じる局面が生じると思われる。

➤ 羽田部長

- ◆ 年少人口や生産年齢人口は既に減少に転じている。年齢構成に変化が生じている中で、個別の支援策については各個別計画で定めているが、地域全体でどのように支援していくのかを当計画でまとめていく。各部署で持っている情報をどのように地域に還元していくのかを課題化し、対応策を練ってきたい。

■ 佐藤委員

- ◆ 取組評価が C 評価のものは、参加者が少ない、登録者が少ないといったものが多く、既に課題化はできていると思う。課題に対して、どのように対応していくべきかまで踏み込めていない状況なのではないか。情報を吸い上げていくことが今は大事だと思う。
- ◆ 当計画のために実施しているアンケートではないものを指標値として利用するのは適さない。アンケートを実施するのではあれば、施策に沿ったアンケートや、まちづくり協議会の方に向けたアンケートなどを実施してみたらどうか。

➤ 高橋課長

- ◆ 市民からの印象を反映したアンケート等による評価も必要であるかもしれないが、実際

の取組事業の内容を評価していくことがより有意義だと考えている。よって、第4期計画ではアンケートによる評価ではなく、取組事業の内容を検討委員会及び当委員会で評価していく形式としたいと考えている。

➤ 森山委員長

- ◆ アンケートをどのように活用していくのかが大切。アンケート結果をヒントとして、課題解決に向けたきっかけとしてほしい。

■ 山口委員

- ◆ 骨子案 27～28 ページに記載のある課題の中に、外国人への支援に関する記載がない。外国人の人数は大幅に増えている。日本人同様、共に歩む市民であるため、外国人への支援施策についても示してほしい。

➤ 高橋課長

- ◆ 外国人への支援に関する課題についても、検討していきたいと思う。

➤ 羽田部長

- ◆ 市の防災計画には外国人への支援に関する記載もあるので、そうした兼ね合いも見ながら当計画への記載を検討していきたい。

➤ 山口委員

- ◆ 外国人の方にも守谷市に住んで良かったと思ってもらえるよう、課題には記載しない場合であっても、外国人への支援を考えていってほしい。

■ 森山委員長

- ◆ 年少人口は人口の14%を占める。骨子案 28 ページでは子育て世帯に関する支援が主で記載されているが、貧困やヤングケアラーなど子どもへの直接支援についても当計画で課題とするのか。

➤ 高橋課長

- ◆ 子どもへの支援についても、骨子案 28 ページの課題4に含めていきたいと考えている。

➤ 森山部長

- ◆ 今後、子ども計画の策定を予定しており、子どもへの支援の本筋はそこに盛り込んでいくが、当計画における課題の整理については、こども未来部と健幸福祉部で協議していきたい。

■ 國貞委員

- ◆ 福祉サービスを実際に受けられた方にとってどの程度効果があったのか、という観点からの評価も意識した方がよいのではないか。
- ◆ 骨子案 27～28 ページの課題について、統計データ等と一般論を掛け合わせて記載している

ように思われるので、もう少し地域住民の声や近隣自治体等の取組等を加味して記載すると良いのではないかと。

■ 長津委員

- ◆ 精神障がい者への支援について課題に記載されているが、一般的には大人をイメージされる方が多いが、子どもの発達障がいも含まれる。発達障がいは、早い段階で発見されれば、軌道修正でき、社会に馴染むことができるが、そうでないと地域に馴染めず、大人になった際に精神障がいとなることがある。
- ◆ 精神障がいや知的障がい、身体障がいを一括りにするのは無理があるし、福祉分野だけでなく教育分野など様々な要素が関係するものである。
- ◆ 当計画をわが事として考えてくれる方が増えると良い。

■ 友松委員

- ◆ 最近は民生委員活動をPRする取組を実施している。地域の様々な取組を知らない方が多いので、一般の方にも周知していきたい。

■ そのほか

- ◆ 見やすい委員会資料の作成を心掛けてほしい。(文字の色、大きさ等)

4 閉 会